



日本有機化学研究のパイオニア

眞島利行資料展

—日本化学会「化学遺産」認定記念—

平成24年 4月17日（火）～5月2日（水）

東北大学史料館 企画展示室にて

開館日 月曜日～金曜日（祝日を除く）開館時間 10:00～17:00 入場無料

仙台市青葉区片平2-1-1 東北大学片平キャンパス内

※仙台市営バス 東北大正門前下車徒歩3分

URL <http://www2.archives.tohoku.ac.jp> 電話 022-217-5040

●眞島利行 (1874~ 1962)

東北帝国大学理科大学初代教授の一人で、戦前期日本を代表する有機化学研究者です。東京帝国大学卒業後、東大助教を経て、明治44(1911)年東北帝国大学理科大学の有機化学担当教授として仙台に赴任しました。

東大在職中から当時まだ日本では研究が遅れていた有機化学の研究に取り組み、漆の主成分ウルシオールの研究をはじめ、日本の自然界にある有機物を主題に、独自のテーマで研究を次々と進め日本の有機化学研究の基礎を築きました。また、女性科学者の草分けとして知られる黒田チカや、「トロポノイド化学」という新分野の開拓者として活躍した野副鐵男など、日本を代表する有機化学者を数多く育てたことでも知られています。

東北帝国大学教授を22年間つとめる一方で東京の理化学研究所主任研究員を兼ね、さらに北海道帝国大学理学部や、東京工業大学の教授等を兼務。昭和8(1933)年には長岡半太郎の招きで新設の大阪帝国大学に赴任し、のち大阪帝国大学総長を務めています。昭和24(1949)年文化勲章受章。高校時代にボートに熱中し身体を鍛えたスポーツマンであると共に、敬虔なクリスチャンでもあります。



欧州留学中 パリ郊外にて (左端が眞島)

●日本化学会「化学遺産」認定資料

平成24(2012)年3月26日、東北大学(史料館)と大阪大学(総合学術博物館)が所蔵している関連資料が「眞島利行ウルシオール研究関連資料」として日本化学会の「化学遺産」認定を受けました(第011号)。東北大学の所蔵資料は以下の3件です。

○ハイドロウルシオール標本

眞島研究室で合成されたハイドロウルシオールの入った試験管。“Majima”と印刷されたラベルが貼られ黒く固化しています。ハイドロウルシオールの精製は、眞島の代表的な研究成果であるウルシオールの構造決定を軌道に載せた重要なきっかけとなったもので、眞島自身「之は私の生涯でもっとも喜ばしく感じた事の一つであった」と述べています。理学部化学教室において保管されていた資料を当館が受贈し保管しています。



○眞島利行日記

大正3(1914)年から昭和34(1959)年にかけての日記。東北大学赴任直後から阪大時代を経て戦後に至るまでの長い期間をカバーし、戦前から戦後にかけての科学者の有り様を克明に知ることができる、近代日本科学史の一級資料。本学百年史の編さんを契機として、ご遺族から当館に寄贈されました。



○眞島利行絵はがきコレクション

眞島が主に欧州留学時代の明治40(1907)年~41年に受けとった絵はがき。差出人は、片山正夫、田丸節郎、亀高德平、本多光太郎、石原純などの化学者、物理学者が中心で、当時の科学者間の交流を示す重要な資料です。吉原賢二名誉教授を介してご遺族から当館に寄贈されました。



このほかにも、当館が所蔵する関連資料をあわせて展示しています。